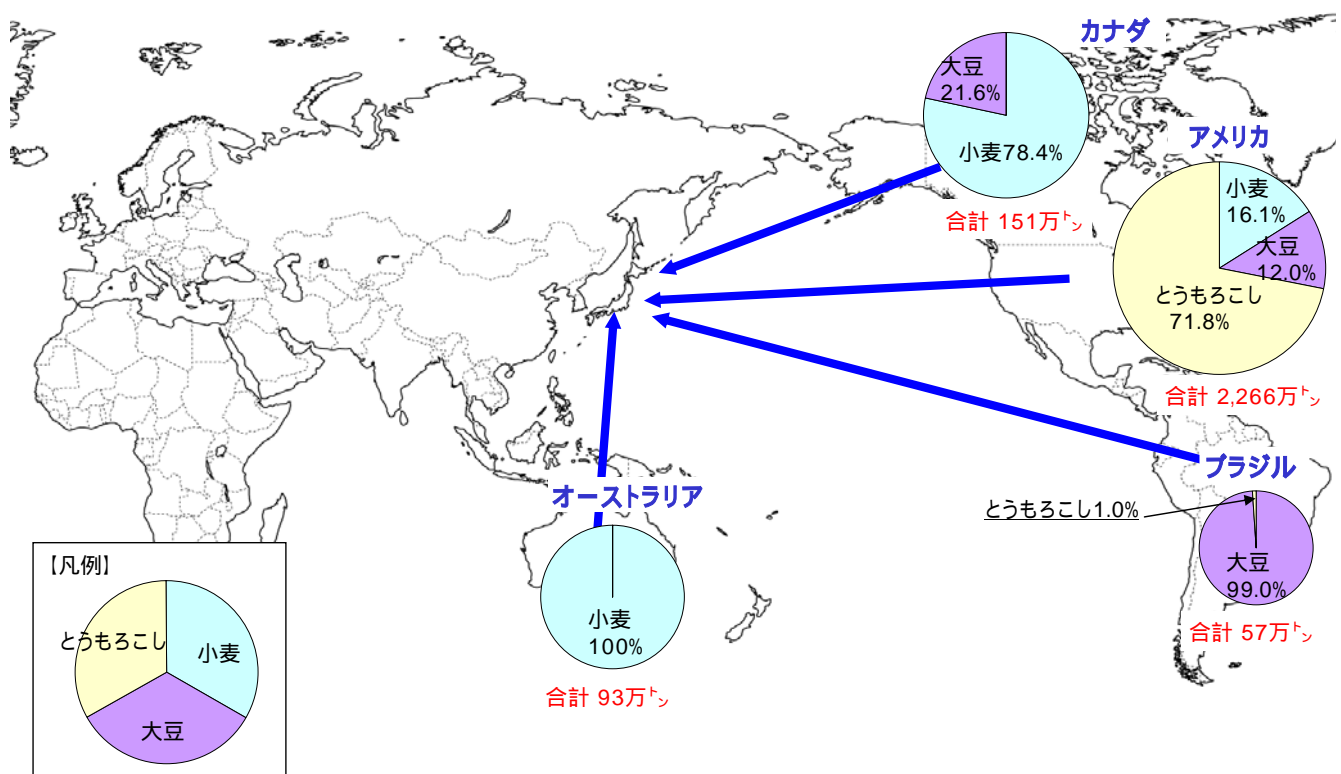


バルク貨物(穀物)の取扱について

1. 我が国の穀物の調達先(原産国)
2. 穀物(小麦、大豆、とうもろこし)の用途
3. 配合飼料(とうもろこし、油かす等)の用途
4. 配合飼料の流動

我が国の穀物の調達先(原産国)

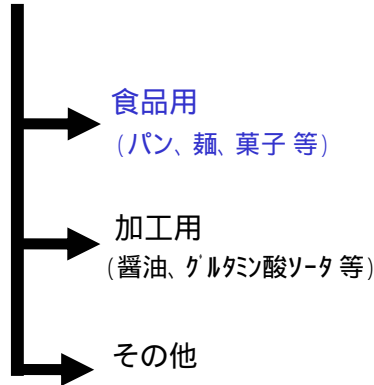
穀物(小麦や大豆、とうもろこし)は、大部分が輸入に依存している
小麦はオーストラリアやカナダ、とうもろこしはアメリカからの輸入が多い



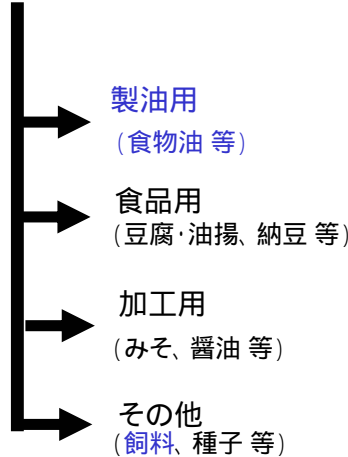
穀物(小麦、大豆、とうもろこし)の用途

小麦は食品向け、大豆は製油向け、とうもろこしは飼料向けの割合が高い

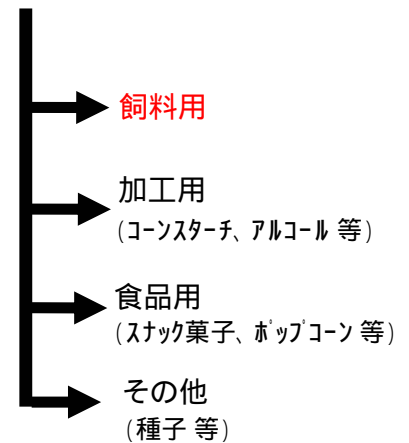
小麦(国内14.5%、輸入85.5%)



大豆(国内6.6%、輸入93.4%)



とうもろこし(輸入100%)



資料:農林水産省 2

飼料穀物の用途

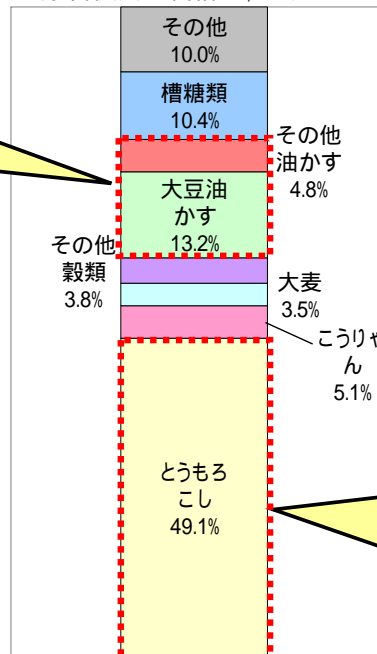
とうもろこしと、『植物性油かす』等の副原料を混ぜることにより、養鶏、養豚、乳牛、肉牛等の畜産飼料が生成される

大豆油かす

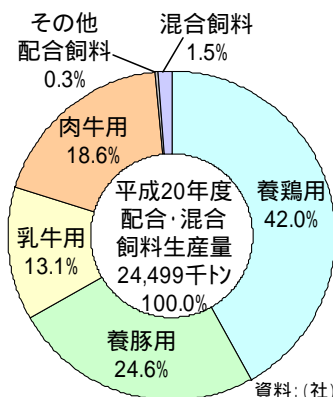
大豆から搾油した後、乾燥させたミール状のもの

配合・混合飼料用原料使用量【平成20年度】

原料使用量合計:2,455万トン



わが国の区別別配合・混合飼料生産量割合【平成20年度】



資料:(社)配合飼料供給安定機構

資料:(社)配合飼料供給安定機構

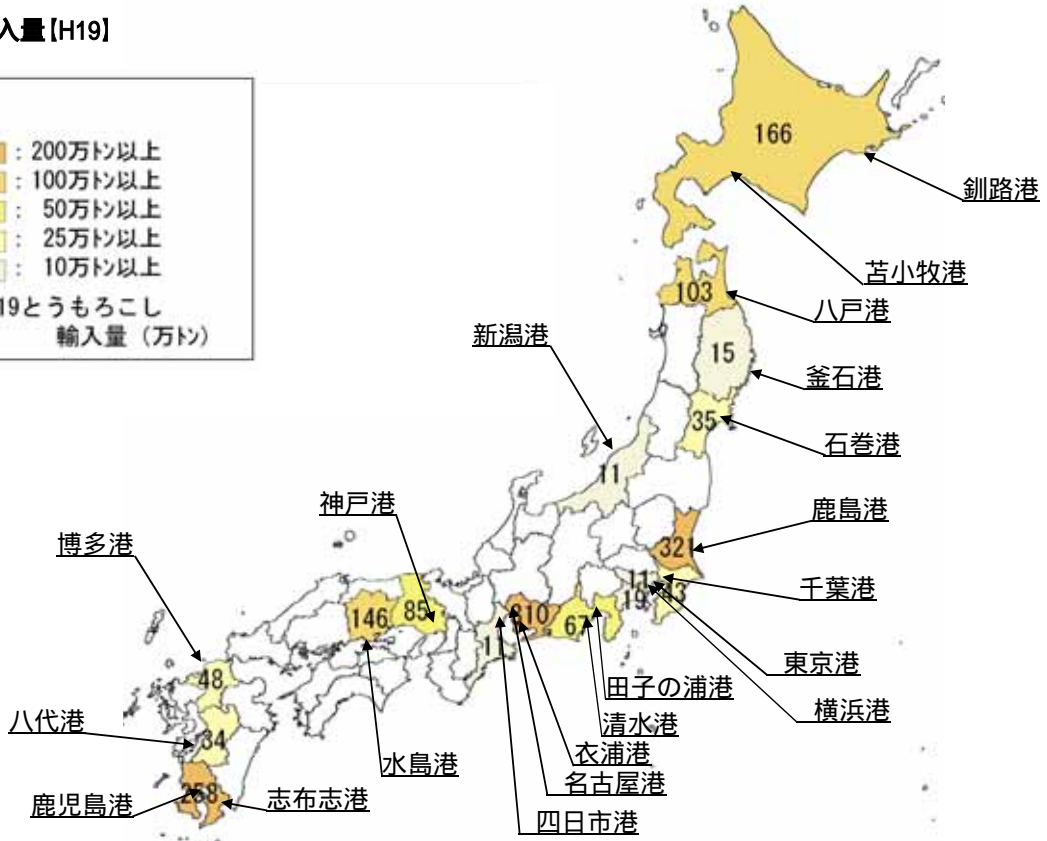


飼料原料として利用

とうもろこしの輸入地域

大規模サイロを有する鹿島港(茨城)、志布志港(鹿児島)、名古屋港(愛知)の取扱が多い

とうもろこし輸入量(H19)



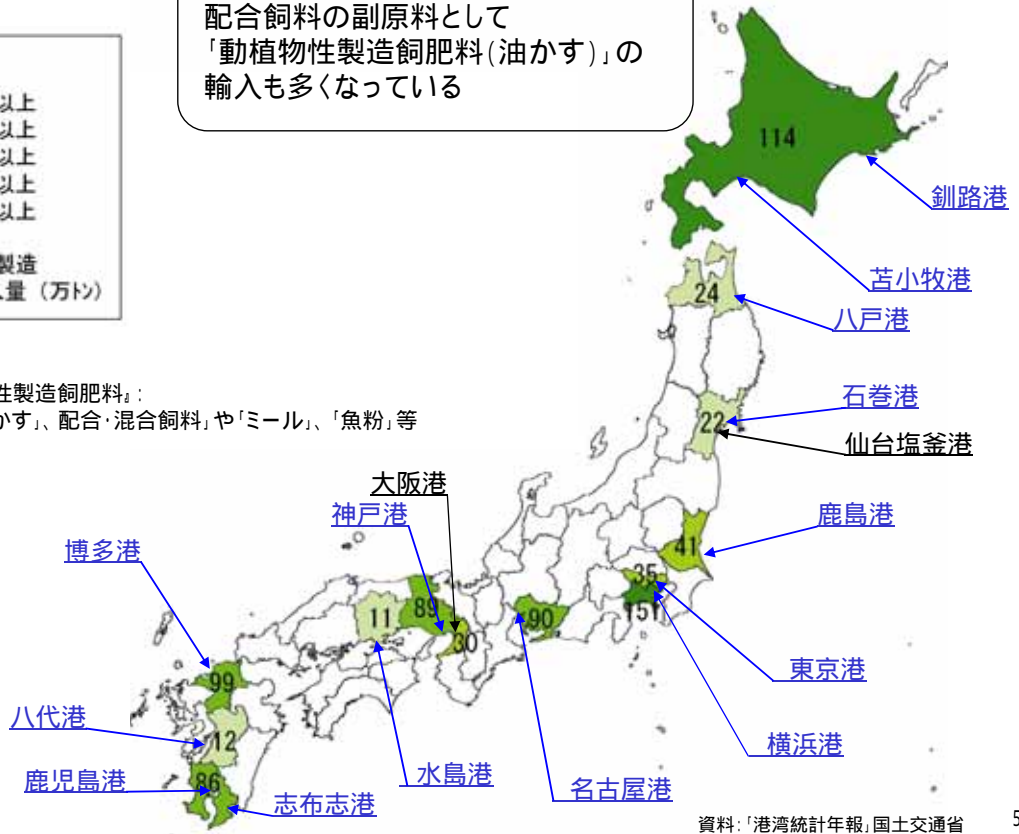
資料:「港湾統計年報」国土交通省

動植物性製造飼肥料(油かす等)の輸入地域

動植物性製造飼肥料輸入量(H19)



とうもろこしの輸入が多い港湾では、配合飼料の副原料として「動植物性製造飼肥料(油かす)」の輸入も多くなっている



注) 港湾統計における「動植物性製造飼肥料」:
大豆油かす等の「植物油かす」、配合・混合飼料」や「ミール」、「魚粉」等

資料:「港湾統計年報」国土交通省

飼料原料の取扱の現状

海外から飼料穀物(とうもろこし、植物性油かす等)を輸入し、直背後のサイロで保管
配合飼料工場で配合飼料を製造し、近隣に家畜のえさとして出荷している

< 主な配合飼料原料取扱港湾(西日本) >

	H19輸入量 (とうもろこし)	H19輸入量 (動植物性製造飼肥料)	最大岸壁水深	主な用途
志布志港(鹿児島)	165万ト	67万ト	-13m	配合飼料
神戸港(兵庫)	85万ト	84万ト	-12.5m	配合飼料
水島港(岡山)	146万ト	11万ト	-14m	配合飼料
博多港(福岡)	41万ト	83万ト	-12m	配合飼料
鹿児島港(鹿児島)	87万ト	15万ト	-14m	配合飼料
八代港(熊本)	34万ト	11万ト	-13m	配合飼料

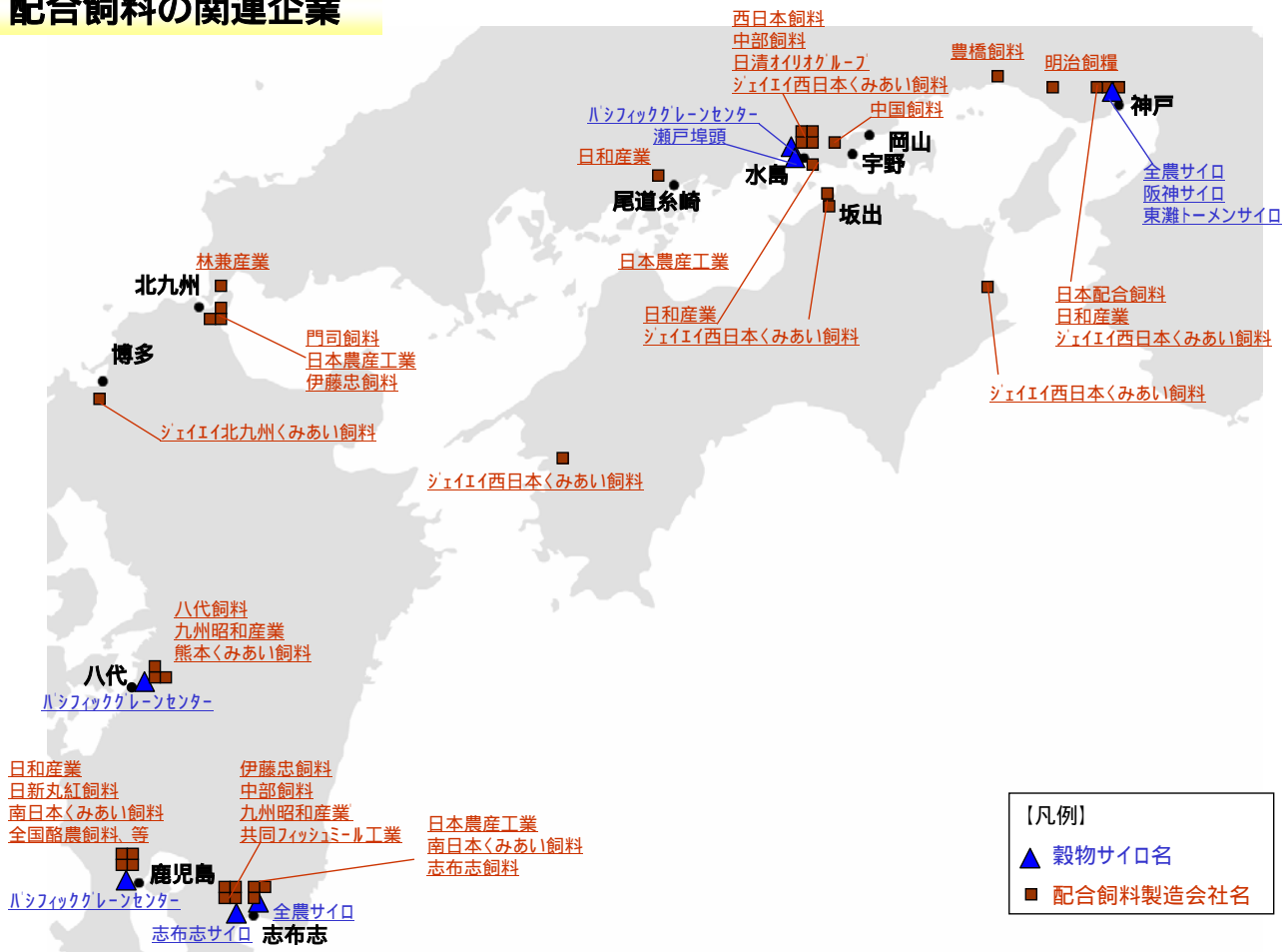


高知県に関連のあるエリアは、水島港(岡山)、神戸港(兵庫)

資料: H19港湾統計及び国土交通省調べ

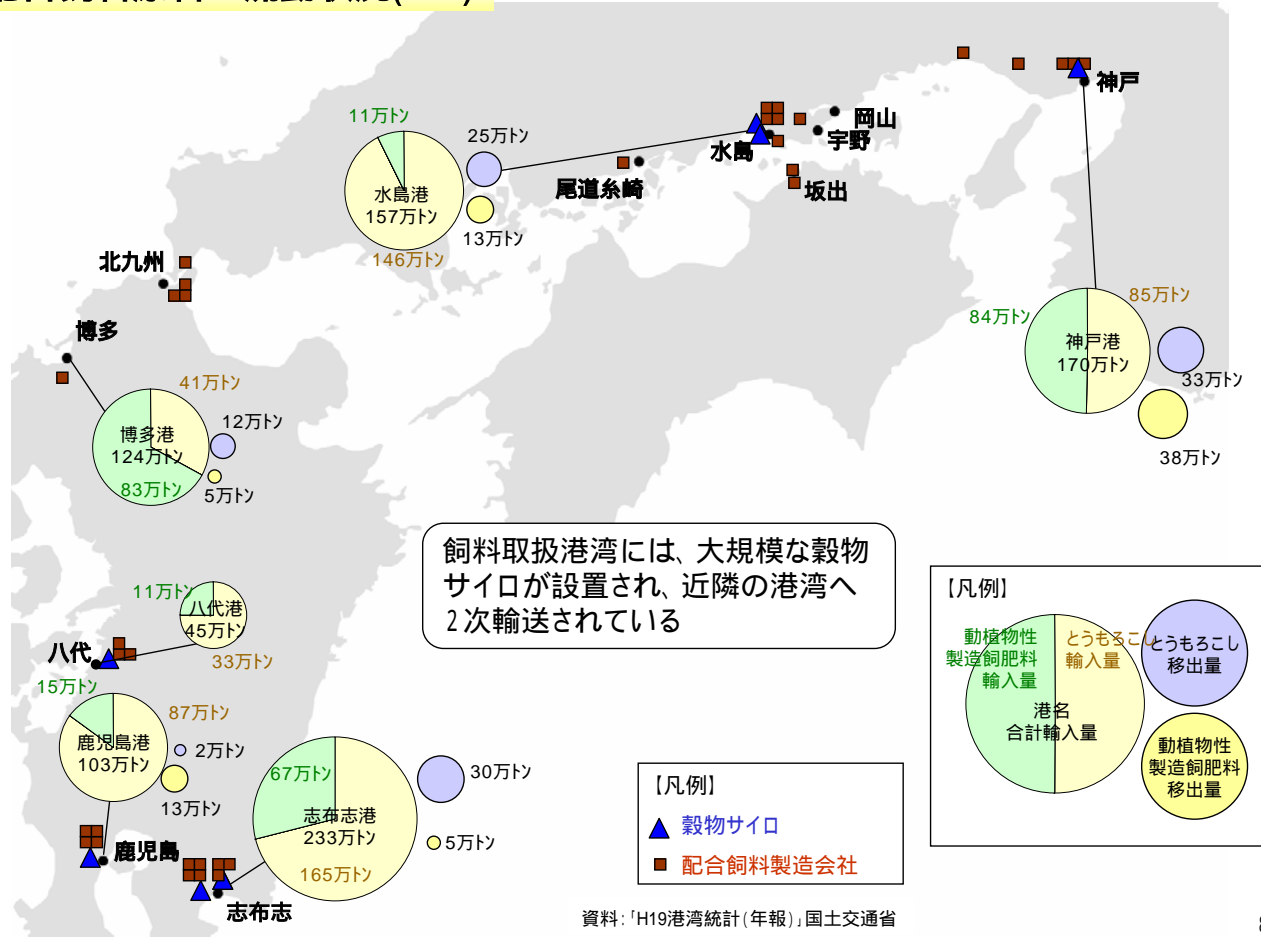
6

配合飼料の関連企業

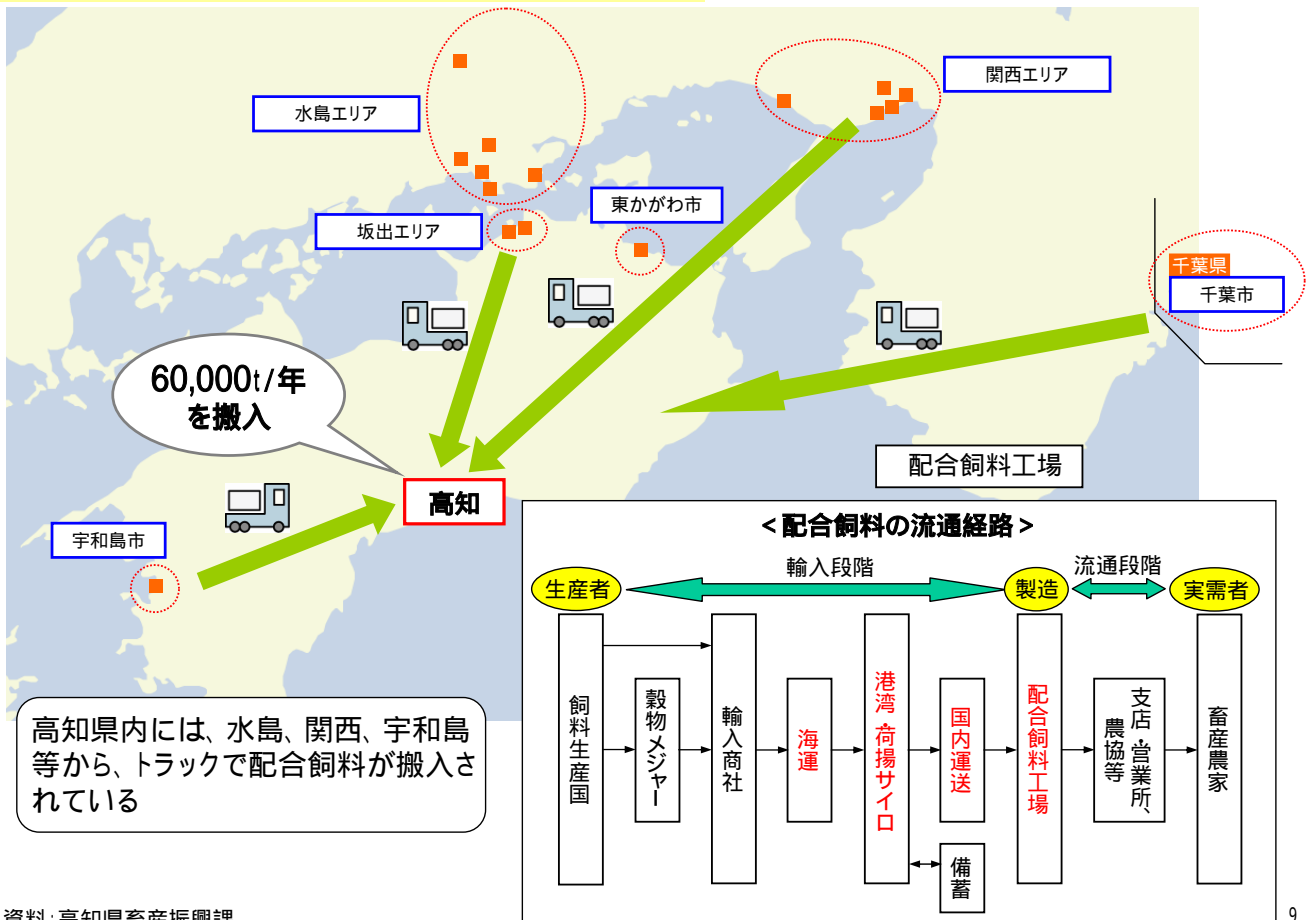


7

配合飼料原料の流動状況(H19)



高知県内の配合飼料(畜産用)の流動状況

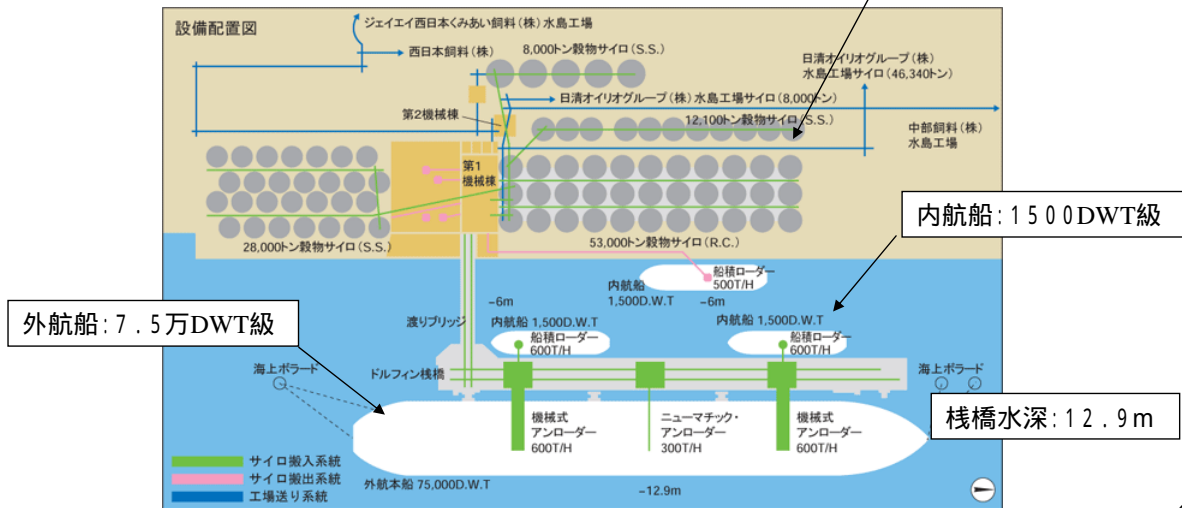


水島港の穀物取扱施設の概要

背後の飼料工場等にコンベアで、近隣のユーザーには内航船やトラックで穀物を供給



サイロの収容能力
約10万トン



出展: パシフィックグレーンセンター(株)HP

参考資料

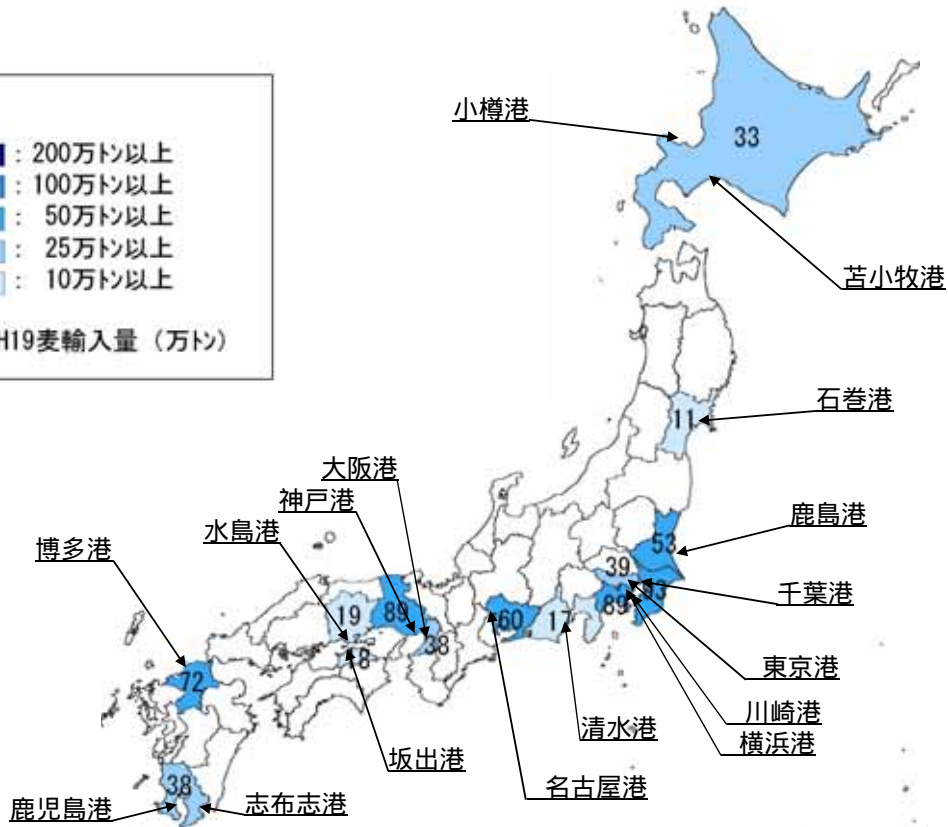
1. 麦の輸入地域

2. 豆類の輸入地域

麦の輸入地域

千葉港(千葉)、神戸港(兵庫)、川崎港・横浜港(神奈川)での取扱量が多い

麦輸入量 [H19]



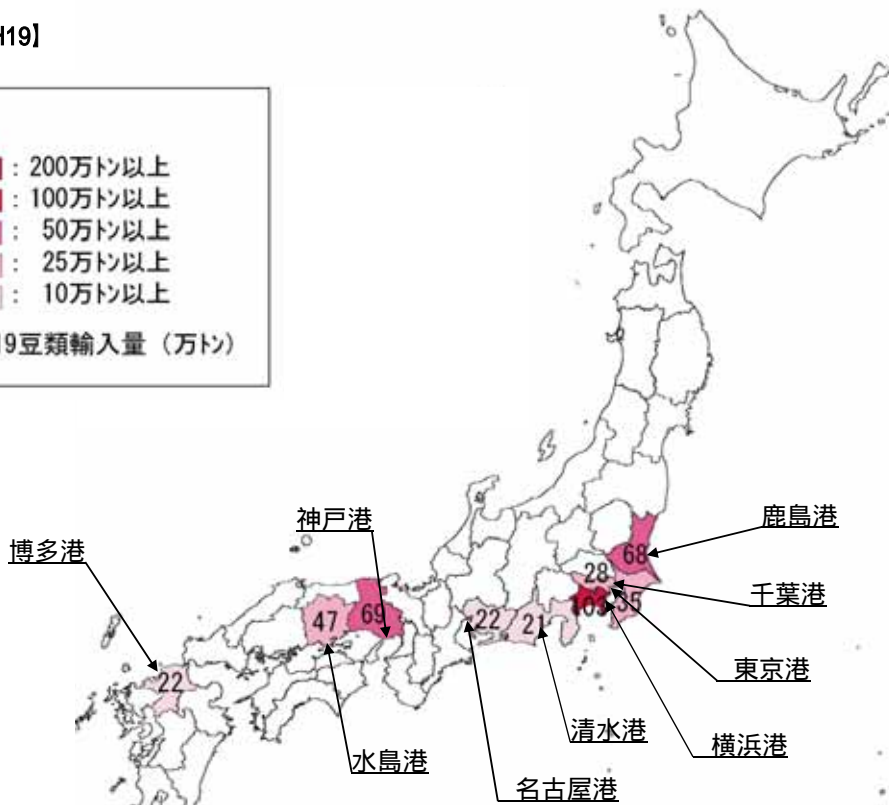
注) 港湾統計の「麦」: 大麦、小麦、えん麦、ライ麦等

資料: 「港湾統計年報」国土交通省 1

豆類の輸入地域

横浜港(神奈川)、鹿島港(茨城)、神戸港(兵庫)での取扱が多い

豆類輸入量 [H19]



注) 港湾統計の「豆類」: 大豆、えんどう、そらまめ、いんげん等

資料: 「港湾統計年報」国土交通省